811. 5−Mo32ウ
1200500753338
811.5
Mo32
ウ

送りがなのつけ方

（案）

始

1012
197

昭和二十一年三月

送りがなのつけ方(案)

文部省

發行所寄贈本

本省で編修または作成する各種の教科書・文書などの國語の表記法を統一し、その基準を示すために、

一、送りがなのつけ方（案）

二、くぎり符號の使ひ方〔句讀法〕（案）

三、くりかへし符號の使ひ方〔をどり字法〕（案）

四、外國の地名・人名の書き方（案）

の四篇を印刷に附した。この案はその一つである。

諸官廳をはじめ一般社會の用字上の參考ともなれば幸である。

（文部省教科書局調査課國語調査室）

811.56
Mo32

はしがき

一、この「送りがなのつけ方」は、國語を書き表はすのに漢字を用ひる場合、單語としてどの部分を漢字で記し、どの部分をかなで示すかについて、現代の口語文に適するやうに基準を定めたものである。

一、この「送りがなのつけ方」は、通則と用例との二部から成る。

一、通則は、おほむね單語の品詞別に從つて、できるだけ簡單なものとした。

一、用例は、それぞれの語の五十音順に掲げた。括弧の中は、參考になる例を示したもの、○印をつけたかなは、文章の種類により、その他必要のある場合には、省き得るもの、傍線をつけたものは、かな書きにすることが望ましいものである。

一、用例の中に掲げてない語の書き表はし方は、通則によつて判斷するものとする。また用例の中に漢字を用ひてある語について、その漢字をかなに改めて書くことは、もとより妨げない。

送りがなのつけ方

第一　動詞の送りがな

〔通則〕

一、動詞は活用語尾を送る。

〔例〕書く　起きる　受ける　勉强する

二、活用語尾を送るだけでは、誤讀、難讀のおそれのある動詞は、その前の音節から送る。

〔例〕表はす　現はす

三、活用しない部分に、他の動詞の活用形をふくむ動詞は、そのふくまれてゐるものの語尾から送る。

〔例〕動かす　傳はる　喜ばす

〔注意〕右において、誤讀、難讀のおそれのないものは、そのふくまれてゐるものの語尾を送らない。

［例］　浮ぶ　押へる　捕へる　振ふ　向ふ　分る

四、活用しない部分に、他の動詞の活用形に準ずるもの（語尾の音が變化してゐるもの）をふくむ動詞は、そのふくまれてゐるものの語尾から送る。

［例］　肥やす　及ぼす　滅ぼす　加はる　定まる　始まる

［注意］　右において、誤讀、難讀のおそれのないものは、そのふくまれてゐるものの語尾を送らない。

［例］　荒す　起す　積る　果す

五、活用しない部分に、形容詞の語幹をふくむ動詞は、そのふくまれてゐるもの以外をかな書きとする。語幹が「し」で終るものは、「し」から送る。

［例］　近づく　遠のく　重んずる　赤らめる　怪しむ　悲しむ　苦しがる

六、活用しない部分に、副詞をふくむ動詞は、副詞としての送りがなから送る。

［例］　確かめる

七、活用しない部分に、名詞をふくむ動詞は、そのふくまれてゐるもの以外の部分をかな書きとする。

1017
197

［例］　指さす　先だつ　先んずる　春めく　黄ばむ

［注意］　「象どる」「司どる」「貫ぬく」「伴なふ」「荷なふ」「實のる」「基づく」「畫がく」などは、それぞれの漢字を、動詞を表はすものと見て、活用語尾だけを送つても差支へない。

八、動詞と動詞と複合したものは、前のにも後のにも送りがなをつける。

［例］　思ひ立つ　譲り渡す

［注意］　右において、前の動詞が二音節で、接頭語のやうに用ひられてゐるもの及び誤讀のおそれのないものは、その送りがなを省くことができる。

［例］　（イ）差出す　引受ける
　　　（ロ）成立つ　割當てる

第二　形容詞の送りがな

一、形容詞は活用語尾を送る。

［例］白い　強い　無い

二、語幹が「し」で終る形容詞は「し」から送る。

［例］美しい　悲しい　苦しい

三、活用語尾を送るだけでは、誤讀、難讀のおそれのある形容詞は、その前の音節から送る。

［例］大きい　小さい　暖(溫)かい　冷たい　細かい

四、活用しない部分に、動詞の活用形をふくむ形容詞は、そのふくまれてゐるものの語尾から送る。

［例］勇ましい　騷がしい　喜ばしい

［注意］右において、誤讀、難讀のおそれのないものは、そのふくまれてゐるものの語尾を送らない。

［例］忙しい　戀しい

五、活用しない部分に、動詞の活用形に準ずるもの（語尾の音が變化してゐるもの）をふくむ形容詞は、そのふくまれてゐるものの語尾から送る。

［例］恐ろしい　頼もしい

［注意］右において、誤讀、難讀のおそれのないものは、そのふくまれてゐるものの語尾を送らない。

［例］荒い　悔しい

六、副詞をふくむ形容詞は、副詞としての送りがなから送る。

［例］甚だしい

七、活用しない部分に、名詞、形容詞の語幹をふくむ形容詞は、そのふくまれてゐるもの以外の部分をかな書きとする。

［例］（イ）際どい　平たい

（ロ）古めかしい　軟(柔)らかい

八、動詞と形容詞と複合したものは、その動詞にも、形容詞にも、送りがなをつける。

［例］聞き苦しい

第三　副詞・接續詞の送りがな

一、副詞、接續詞は最後の一音節を送る。

〔例〕先づ　若し　殊に　必ず　併し　但し　尤も

〔注意一〕一音節の副詞、接續詞のうち、次のやうなものには送らない。

〔例〕又　唯（只）

〔注意二〕名詞としても、副詞としても用ひられる次のやうなものには送らない。

〔例〕今　元　昔　皆

二、「に」を送るだけでは、誤讀のおそれのある副詞は、その前の音節から送る。

〔例〕直ちに　新たに　徒らに

三、「かに」「やかに」「らかに」などのついた副詞は、これらを送る。

〔例〕靜かに　豐かに　賑やかに　滑らかに

〔注意一〕右の種類の語が、「な」「で」などの語尾をとる場合も、同樣に「か」「やか」「らか」の

部分から送る。

〔例〕靜かな　靜かで　賑やかな　賑やかで　滑らかな　滑らかで

〔注意二〕「やかに」「らかに」のついた副詞のうち、次のやうなものは、慣用によつて、「や」「ら」を省くことができる。

〔例〕鮮やかに　穩やかに　爽やかに　健やかに　速やかに

明らかに　朗らかに　詳らかに

四、副詞、接續詞の語尾に、更に助詞、接尾語が加はつて、別の副詞、接續詞となつてゐるものは、もとの副詞、接續詞の送りがなから送る。

〔例〕必ずしも　若しも

併しながら　若しくは

五、活用語と關係のある副詞、接續詞は、その活用語の語尾を送る。

〔例〕餘り　始め　絶えず　盛んに

依つて　從つて　就いては　並びに　及び

〔注意〕◎印は音便形である。

六、副詞の一部分に、名詞、形容詞の語幹をふくむものは、そのふくまれてゐるもの以外の部分をかな書きとする。

〔例〕(イ)手づから

(ロ)淺はかに

第四 名詞の送りがな

一、本來の名詞は、かなを送らない。

〔例〕紙 時 銅 思 山里 品物 國民 性格

二、活用語から轉じた名詞（複合名詞をふくむ）は、原則として活用語本來の送りがなをつける。

〔例〕動き 調べ 殘り 苦しみ 生き物 物知り 歩み寄り

三、活用語から轉じた名詞（複合名詞をふくむ）のうち、誤讀、難讀のおそれのないものは、その送りがなの一部又は全部を省くことができる。

〔例〕見合せ（「合はせ」の「は」を省いたもの）

打合せ（「打ち」の「ち」と、「合はせ」の「は」とを省いたもの）

組 答 話 日附 勤人 申込

四、形容詞の語幹に、「さ」「み」「け」「げ」などがついて、名詞となつてゐるものは、これらのかなを送る。語幹が「し」で終るものは、「し」から送る。

〔例〕暑さ 親しさ 甘み 寒け 眠け 惜しげ

五、數を數へる語尾の「つ」は送る。

〔例〕一つ 二つ 三つ 四つ 五つ 幾つ

備考 以上に掲げた以外の品詞、代名詞、連體詞、感動詞並びに助動詞、助詞は、漢字を用ひないのを原則とする。

〔用例〕

あかす	明かす（明く）（明ける）
あがなふ	購ふ
あからめる	赤らめる（赤い）
あがる	上がる（上げる）揚がる（揚げる）擧がる（擧げる）
あかるい	明かるい
あきなふ	商なふ
あきらかに	明らかに
あけがた	明け方
あさはかに	淺はかに（淺い）
あさましい	淺ましい
あざやかに	鮮やかに
あたたかい	暖かい　溫かい
あたたかに	暖かに　溫かに
あたたまる	暖まる（暖める）　溫まる（溫める）
あたらしい	新しい
あたる	當る（當てる）
あぢはひ	味はひ
あぢはふ	味はふ
あづかりきん	預り金（預金）
あづかる	預かる（預ける）　與る
あづけきん	預け金（預金）
あつまり	集まり
あつまる	集まる（集める）
あとかたづけ	後片附

あはせて　副詞	合はせて　併せて
あはせる	合はせる
あへて	敢へて
あまり　名詞・副詞	餘り（餘る）
あまりに	餘りに
あまんずる	甘んずる（甘い）
あみもの	編み物
あやしがる	怪しがる（怪しい）
あやしむ	怪しむ
あらい	荒い（荒れる）
あらかじめ	豫め
あらす	荒す
あらたに	新たに（新手）
あらたまる	改まる（改める）
あらはす	表はす　現はす　著はす
あらはれる	表はれる　現はれる
いかす	生かす（生きる）　活かす（活きる）
いきすぎ　名詞	行き過ぎ
いきほひ　名詞・副詞	勢ひ名詞　勢ひ副詞
いきもの	生き物　生物
いくつ	幾つ
いざなふ	誘ふ（誘ふ）
いさましい	勇ましい（勇む）
いそがしい	忙しい
いたつて　副詞	至つて

いたづらに　徒らに、
いたましい　痛ましい（痛む）
いちじるしい　著しい
いつくしむ　慈しむ
いつつ　五つ
いひかた　言ひ方
いひわたし　言渡し
いまはしい　忌まはしい（忌む）
いやしむ　卑しむ（卑しい）賤しむ
　（賤しい）
いる　要る　入る
いろどる　色どる　彩る
うかぶ　浮ぶ（浮く）

うかる　受かる（受ける）
うきくさ　浮草
うきあし　浮足
うけいれ　受入れ
うけおひ　請負
うけつけ　受付
うけとり　受取
うけとる　受取る
うけもち　受持
うけわたし　受渡し
うごかす　動かす（動く）
うごき　動き
うすらぐ　薄らぐ（薄い）

うたがはしい　疑はしい（疑ふ）
うたがひ　疑ひ
うちあはせ　打合せ（打合會）
うちあひ　打合
うちきり　打切り
うづまる　埋まる（埋める）
うづもれる　埋もれる
うまる　埋まる（埋める）
うまれる　生△まれる（生む）
うめあはせ　埋合せ
うらなふ　占△なふ
うらやましい　羨ましい（羨む）
うらめしい　恨めしい（恨む）怨めしい

　（怨む）
うりだし　賣出し
うりをしみ　賣惜しみ
えらぶ　選ぶ（選る）
おいて　於いて
おきもの　置物
おくまる　奥まる
おこす　起す（起きる）
おごそかに　嚴かに
おこる　起る（起きる）
おさへる　押へる（押す）
おそらく　恐らく（恐れる）
おそろしい　恐ろしい

おだやかに　穏やかに
おちつき　落着き
おとしもの　落し物
おとす　落す（落ちる）
おとづれる　訪れる
おのづから　自ら（自ら）
おほいに　大いに
おほきい　大きい
おほむね　概ね
おほよろこび　大喜び
おほわらひ　大笑ひ
おもひたつ　思ひ立つ
おもひで　思ひ出

おもむろに　徐ろに
おもんずる　重んずる（重い）
および　接続詞　及び（及ぶ）
およぼす　及ぼす（及ぶ）
おろそかに　疎かに
かうばしい　香ばしい
かがまる　屈まる（屈める）
かがやかしい　輝かしい（輝く）
かかり　掛　係
かかる　掛る（掛ける）　懸る（懸ける）
かきかた　書き方
かきつけ　書附

かきもの　書き物（書物）
かけきん　掛け金
かけもの　掛け物
かさなる　重なる（重ねる）
かしかた　貸方
かしや　貸家
かすかに　微かに
かたどる　象どる
かたまる　固まる（固める）
かたらふ　語らふ（語る）
かちまけ　勝ち負け
かつ　副詞・接続詞　且つ
かなしさ　悲しさ（悲しい）

かなしみ　悲しみ
かなしむ　悲しむ
かならず　必ず
かならずしも　必ずしも
かねて　兼ねて　豫て
かはる　變る（變へる）　代る（代へる）
かひしめ　買占め
かひだし　買出し
かひだめ　買溜め
かへつて　副詞　却つて
かへりみる　省みる　顧みる
がへんずる　肯ずる

かよひちやう　通ひ帳（通帳）
からす　枯らす（枯れる）
かりに　假りに
かろんずる　輕んずる（輕い）
かんがみる　鑑みる
かんばしい　香ばしい
きこえる　聞える（聞く）
きたす　來たす
きたる　來たる（來る十日）（來る）
きはどい　際どい
きはまる　極まる（極める）
きばむ　黄ばむ
きはめて　極めて（極める）

きまる　決まる（決める）　極まる（極める）
きよらかに　淸らかに（淸い）
きりかへ　切替
くぎづけ　釘付け
くはしい　委しい　精しい
くはせる　食はせる（食ふ）
くははる　加はる（加へる）
くみ　組（組む）
くみあはせ　組合せ
くみあひ　組合
くみたて　組立（組立式）
くやしい　悔しい（悔いる）

くやみ　悔み
くやむ　悔む
くらし・名詞　暮し
くらす　暮す（暮れる）
くりあげ　繰上げ
くりいれ　繰入れ
くりかへす　繰り返す
くりこし　繰越し（繰越金）
くりさげ　繰下げ
くりのべ　繰延べ
くるしがる　苦しがる（苦しい）
くるしさ　苦しさ
くるしみ　苦しみ

くるしむ　苦しむ
くるはせる　狂はせる（狂ふ）
くるひ　狂ひ
けつして　決して（決する）
こがす　焦がす（焦げる）
こがれる　焦がれる
こころあたり　心當り
こころがけ　心掛け
こころみる　試みる
こころもち名詞・副詞　心持名詞　心持ち副詞
こころよい　快い
こたへ　答
ことごとく　悉く

ことさらに　故らに
ことなる　異△なる
ことに　殊に
このましい　好ましい（好む）
このみ　好み
このもしい　好もしい（好む）
こひしい　戀しい（戀ひる）
こひねがふ　希ふ
こまかい　細かい（細い）
こまかに　細かに
こまやかに　細やかに　濃やかに
こやす　肥やす（肥える）
こらす　懲らす（懲りる）
ころがす　轉がす
ころがる　轉がる
ころばす　轉ばす（轉ぶ）
さいはひ名詞・副詞　幸△ひ名詞　幸ひ副詞
さからふ　逆△らふ
さかり　盛り
さがる　下がる（下げる）
さかんに　盛んに
さきだつ　先だつ
さきんずる　先んずる
さしおさへ　差押
さしつかへ　差支
さしつかへる　差支へる

さそふ　誘ふ（誘ふ）
さだまる　定まる（定める）
さだめて　副詞　定めて
さづかる　授かる（授ける）
さます　冷ます（冷める）　覺ます（覺める）　醒ます（醒める）
さむけ　寒け
さわがしい　騷がしい（騷ぐ）
さわやかに　爽△やかに
しあはせ　仕合せ
しあひ　仕合　試合
しかし　併し
しかしながら　併しながら
したがつて　副詞　從つて（從ふ）
したしさ　親しさ（親しい）
したしみ　親しみ
したしむ　親しむ
したたらす　滴らす（滴る）
したはしい　慕はしい（慕ふ）
しづかに　靜かに
しづまる　靜まる（靜める）　鎭まる（鎭める）
しはらひ　仕拂ひ△　支拂ひ△（支拂制限）
しまり　締り

しまる	締△まる(締める)
しめだし	閉出し
しらべ	調△べ(調)
すぐ	直ぐ
すぐに	直ぐに
すくない	少い
すくなくとも	少くとも
すくなくない	少くない
すくひ	救ひ
すこし	少し
すごす	過ごす(過ぎる)
すこやかに	健△やかに
すでに	既に

すなはち	即ち
すべて	總べて(總べる)
すべらす	滑らす(滑る)
すます	濟△ます(濟む)
すみやかに	速△やかに
せばまる	狭まる(狭める)
そこなふ	害ふ　損ふ　賊ふ
そなはる	備はる(備へる)
そまる	染まる(染める)
そらす	反らす(反る)　外らす
たえず　副詞	絶えず(絶える)
たがひに	互に
たかまる	高まる(高い)(高める)

たからかに	高らかに
たくみに	巧みに(巧む)
たしかに	確かに
たしかめる	確かめる
たすかる	助かる(助ける)
ただ　副詞	唯　只
ただし	但し
ただしがき	但書
ただちに	直ちに
たたまる	疊まる(疊む)
ただよはす	漂はす(漂ふ)
たちまち	忽ち
たてもの	建物

たとへば	例へば(例へる)
たのしさ	樂しさ(樂しい)
たのしみ	樂しみ
たのしむ	樂しむ
たのもしい	頼もしい(頼む)
たひらかに	平かに
たひらげる	平げる
たひらに	平に(平に)
たまはる	賜はる(賜ふ)
たまる	溜まる(溜める)
たやす	絶やす(絶える)
たより	便り(便る)
たらす	垂らす(垂れる)

ちゞまる	縮まる(縮む)(縮める)
ちぢらす	縮らす(縮れる)
ちひさい	小さい
ちらす	散らす(散る)
ついで 副詞	次いで(次ぐ)
ついては	就いては(就く)
つかさどる	司どる△ 掌る
つかはす	遣す
つぎに	次ぎ△に
つぎの	次の
つくす	盡す(盡きる)
つぐのふ	償ふ
つたない	拙い

つたはる	傳はる(傳ふ)(傳へる)
つとめさき	勤先
つとめにん	勤人
つながり	繫り
つながる	繫がる(繫ぐ)
つねに	常に
つひに	終に
つひやす	費す(費える)
つぶさに	具に
つまびらかに	詳△らかに 審△らかに
つまる	詰まる(詰める)
つめたい	冷たい
つもる	積る(積む)

つらなる	連なる(連ねる)(連れる)
つらぬく	貫ぬ△く
てあて	手當
てづから	手づから
てつづき	手續(手續問題)(入學手續)
てどり	手取
てもち	手持
てらす	照らす(照る)
とかす	溶かす(溶く)(溶ける)
とがらす	尖らす(尖る)
ときめく	時めく
とじまり	戸締り△

とどけ	屆
とどまる	止まる(止める) 留まる(留める) 停まる(停める)
となり	隣
とばす	飛ばす(飛ぶ)
とひあはせ	問合せ
とひや	問屋
とほざかる	遠ざかる(遠い)
とほざける	遠ざける
とほのく	遠のく
とます	富ます(富む)
とまる	止まる(止める) 留まる

（留める）　停まる（停める）

ともなふ　伴なふ△
とらへる　捕へる（捕る）
とりあつかひ　取扱ひ△（事務取扱）
とりあつかふ　取扱ふ
とりけし　取消
とりしまり　取締り△（取締役）
とりしらべ　取調べ△
とりつぎ　取次
とりはからひ　取計らひ△△
とりはらひ　取拂ひ△
とりひき　取引

ながし　名詞　流し（流れ）
ながらへる　長らへる（長い）
ながれ　流れ
なげうり　投賣り△
なげかはしい　歎かはしい（歎く）
なごやかに　和やかに
なつかしい　懐かしい（懐く）
なつやすみ　夏休み△
なほ　尚ほ
なめらかに　滑らかに
ならす　馴らす（馴れる）　均す
ならはし　習はし
ならびに　並びに

なりたつ　成り立つ△
にがす　逃がす（逃げる）（逃がす）
にぎはふ　賑はふ
にぎやかに　賑やかに
になふ　荷なふ△　擔ふ
にはかに　俄かに
ぬかづく　額づく
ぬけだす　拔け出す
ぬらす　濡らす（濡れる）
ねがはしい　願はしい（願ふ）
ねがひ　願ひ△（賜暇願）
ねんごろに　懇に
ねたましい　妬ましい（妬む）

ねむけ　眠け（眠い）
のがす　逃がす（逃がす）
のこり　殘り
のぞましい　望ましい（望む）
のつとる　則とる△
のばす　延ばす（延びる）
のりあひ　乘合
のりおり　乘り降り△
のりこし　乘り越し△
ばかす　化かす（化ける）
はからひ　計らひ
はからふ　計らふ（計る）
はこび　運び（運）

はさまる　挾まる（挾む）
はじまり　始まり
はじまる　始まる（始める）　初まる
　（初める）
はじめ　名詞・副詞　始め　初め
はたして　果して
はたす　果す
はたらき　働き
はづかしい　恥づかしい
はづれる　外れる（外れる）
はなし　話（話す）
はなはだ　甚だ
はなはだしい　甚だしい

はなやかに　華やかに
はやす　生やす（生える）
はらす　晴らす（晴れる）
はらひこみ　拂込
はるかに　遙かに
はるめく　春めく
はれやかに　晴れやかに
ひあたり　日當り
ひきあげ　引上げ
ひきうけにん　引受人
ひきうける　引受ける
ひきかへ　引換（引換券）　引替
ひきこみ　引込（引込線）

ひきさげ　引下げ
ひきだし　引出し
ひきつぎ　引繼（事務引繼）
ひきとり　引取（引取人）
ひきわけ　引分け
ひそかに　私かに　密かに　陰かに
ひづけ　日附
ひっこし　引越
ひつこみ　引込（引込思案）
ひやかす　冷かす
ひやす　冷やす（冷える）（冷ます）
ひややかに　冷やかに
ひらたい　平たい

ひろがる　廣がる（廣い）（廣げる）
ひろまる　廣まる（廣める）
ふかす　更かす（更ける）
ふかまる　深まる（深い）（深める）
ふさがる　塞がる（塞ぐ）
ふたたび　副詞　再び
ふたつ　二つ
ふみきり　踏切
ふやす　殖やす（殖える）
ふりかへ　振替
ふるふ　振ふ（振る）　顫ふ
ふるめかしい　古めかしい（古い）
へだたる　隔たる（隔てる）

へらす　減らす（減る）（滅す）
ほがらかに　朗らかに
ほこり　誇り（誇る）
ほつする　欲する
ほとんど　殆ど
ほぼ　略々
ほりだしもの　掘出物
ほろぼす　亡ぼす（亡びる）　滅ぼす
（滅びる）
まうしあげる　申し上げる
まうしあはせ　申合せ（申合事項）
まうしいれ　申入れ
まうしこみ　申込

まうしこむ　申し込む
まかなふ　賄ふ
まがる　曲る（曲げる）
まぎらす　紛らす（紛れる）
まことに　誠に
まざる　雑ざる（雑る）（雑ぜる）
まじはる　交はる（交る）（交へる）
また　副詞・接續詞　又
まちあはせ　待合せ
まちあひ　待合（待合室）
まづ　先づ
まつたうする　全うする　完うする
まつたく　全く

まぬかれる　免れる
まひなふ　賂ふ
まよはす　迷はす（迷ふ）
みあはせ　見合せ
みあひ　見合
みおくり　見送り
みじかい　短い
みだし　見出し
みたす　充たす（充つ）（充ちる）
滿たす（滿つ）（滿ちる）
みづから　自ら（自ら）
みつつ　三つ
みつもり　見積り

みとほし　見通し
みのる　實る
みはらし　見晴し
みまひ　見舞
むかふ　向ふ（向く）
むしろ　副詞　寧ろ
むすび　結び（結ぶ）
むなしい　空しい
むらがる　群がる
めづらしい　珍しい
もし　若し
もしくは　若しくは
もたらす　齎す

もちあはせ　持合せ
もつて　以つて
もつとも副詞・接續詞　最も副詞　尤も接續詞
もつぱら　專ら
もとづく　基づく△
ものしり　物知り
ものずき　物好き
ものわらひ　物笑ひ
もやす　燃やす（燃す）（燃える）
やすんずる　安んずる（安い）
やとひぬし　雇ひ△主
やはらかい　軟△らかい（軟い）　柔らか△い（柔い）

やはらかに　軟らかに　柔らかに
やはり　矢張り
やや　稍々
ゆきすぎ　行き△過ぎ
ゆくへ　行方
ゆたかに　豐かに
ゆづりわたし　讓り△渡し（讓渡）
ゆびさす　指さす
ゆるやかに　緩やかに（緩い）
ゆゑに　故に
よこたはる　横たはる
よこたへる　横たへる
よせがき　寄せ△書

よせて　寄せ手
よそほふ　裝ふ
よつて　因つて　依つて
よびだし　呼出し（呼出電話）
よみかき　讀み△書き（讀書）
よみする　嘉する
よりあひ　寄り△合ひ△
よろこばす　喜ばす（喜ぶ）
よろこび　喜び
よわたり　世渡り
よわまる　弱まる（弱い）（弱める）
わかす　沸かす（沸く）
わかつ　分つ（分ける）

わかれる　分れる　別れる
わけめ　分け目
わたし　名詞　渡し（渡り）
わたりどり　渡り鳥
わづか　僅か
わづらはしい　煩はしい（煩ふ）
わづらはす　煩はす
わびしい　侘しい（侘びる）
わらひごゑ　笑ひ聲
わらひばなし　笑ひ話
わりあて　割當
わりあてる　割當てる
ゑがく　畫△がく　描く

1012
197
811.56
M032

をさない　幼い

をさまる　治まる（治める）　収まる（収める）　修まる（修める）

をしげ　惜しげ（惜しい）

をそはる　教はる（教へる）

をはる　終る（終へる）

をりかへしせん　折返線

をりかた　折り方

をりめ　折り目

をれめ　折れ目

811.5
Mo32

終